

平成28年度 富士見町議会 社会文教常任委員会

所管事務調査 報告書

平成28年11月18日

富士見町議会

議長 加々見 保樹 様

社会文教常任委員会 副委員長 矢島 尚

平成28年9月定例会において議決された議員派遣の結果について、下記のとおり報告いたします。

記

- 1、 期 日 平成28年11月9日（水）～10日（木）
- 2、 視察地 ① 山梨県富士川町「子どもの健全育成と親の子育て支援」
② 静岡県静岡市 「静岡市中央子育て支援センター」
③ 山梨県都留市 「都留市版CCRC構想」
- 3、 参加者 社会文教常任委員会メンバー及び議会事務局次長
- 4、 研修内容 ①「子どもの健全育成と親の子育て支援」について

山梨県富士川町は、平成22年に鰯沢町、増穂町の3町が合併し人口、面積とも富士見町とほぼ同数値の町である。今回、視察地に富士川町を選んだ背景には、少子化対策に向け子育て支援を町ぐるみで積極的に進めているため、それらの取組みや現在の状況、また今後の計画について研修いたしました。

冒頭、富士川町議会議長の秋山様より歓迎の挨拶を頂き、その後子育て支援に関わる各担当者（リーダー）より今までの取組みや現在の状況等お話しを頂きました。また終了後、かじかざわ児童センターの見学を行いました。

富士川町の子育て支援課の中には、他地町村にあまり例のない「母子保健担当」という妊娠してから支援をしていく制度や、不妊治療支援事業、0歳から18歳までの医療費保険診療分の助成、ひとり親家庭への支援など様々な取組みをしている。また町内の中学生、高校生への思春期体験学習として、妊婦さんのお腹を触ったり、生後数ヶ月の赤ちゃんを抱っこし

たり、と教育の場にも子育ての大切さを教えていることには驚きました。また児童センターの施設及び環境の充実さにも、地域ぐるみで子どもを大切にしているが伺えました。

②「静岡市中央子育て支援センター」について

財政豊かな自治体ならではの取組みが行われている。子育て支援センター19ヶ所、子育て世代包括支援センター2ヶ所、保健福祉センター9ヶ所、児童館11ヶ所と規模は大きい。今回はその中でも市内中心部に位置する中央子育て支援センターを視察しました。静岡市役所子ども未来局子ども未来課の係長、社会福祉法人静岡市社会福祉協議会静岡中央子育て支援センター所長よりお話しを頂きました。展開している規模やその内容、現在の子育て世代のニーズに対応する支援が可能なことも財政豊かだからこそ出来る内容だと思いました。

③「都留市版CCRC構想」

山梨県東部に位置する都留市、今年8月時点での人口は31168人、市民の約10人に一人が都留文科大学の学生、またリニア実験線でも知られるまちだ。都留市議会副議長、小澤様より歓迎の挨拶を頂き、その後、企画課長柴村様、つる創生推進室長亀田様よりお話しを頂きました。

人口減少と高齢化は全国の課題、都留市の人口も2000年をピークにその後は減少。「生涯活躍のまち・つる」の可能性を推進するために市長の公約が行政サイドを後押ししたとのことでした。

内容は平成26年国の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」策定により都留市は「シルバー産業の構築・推進」から「生涯活躍のまち・つる」事業へと変更。5つのプロジェクトチームをつくり取組みを始めたとのこと各プロジェクトは役所職員約10名で構成されている、①居住環境整備、②大学連携、③地域連携・生涯学習、④健康長寿支援、⑤移住定住促進。まず自分達のまちの弱み（課題）を3つあげ、次に強み（地域特性）を4つあげて推進計画を進めている。最終的には「生涯活躍のまち・つる」構想は目的ではなく手段。目指すのは、「市民全体の豊かな暮らし」だという。また、市役所隣にあるエコハウス「都留市移住定住相談センター」を見学、この施設は相談窓口だけではなく、お試し居住が出来る画期的な施設になっており、1泊2日、無料で体験ができ直に感じてもらいイメージづくり

に役立っているとのこと。

都留市で感じたことは、「都留市版C C R C構想」は着実に実現に向かっていることが伺えました。



富士川町



富士川町



富士川町



富士川町



富士川町



静岡市



都留市



都留市



都留市



都留市